

草津町の皆様、いつもお世話になっております。町長の黒岩信忠でございます。町長就任以降、様々な場面での皆様のご協力、ご理解に対しまして誠に感謝申し上げます。その思いと町政報告をいち早く皆様にお届けするべく、後援会の協力を得て独自のタウン誌を発行する運びとなりました。誌名の「belief」とは、私の町長業務に懸ける情熱を表現する言葉、『信念』という意味でございます。不定期での発行になるとは思いますが、任期中この「belief」をご愛読していただけたらと思います。



特集・ベルツ温泉センターと草津町

●大切な子供たちを危険にさらす大問題

創刊最初の記事は、情報が錯綜して誤解を招きかねないベルツ温泉センターについて、きちんとご説明をしたいと思います。「ベルツ温泉センターが保育園になるの？」との話を聞いて驚かれた方も多いと思いますが、そこに至る経緯からお話を進めます。

阪神大震災後に制定された「耐震改修促進法」が改定され、新たに地震に対して建築物の安全性を確保することを「国民の努力義務」として明記されました。国民の役割をここではっきりと示された以上、町政は小中学校をはじめ、老朽化が進む第1・第2保育園の耐震診断を行いました。その結果、両保育園ともに大がかりの耐震補強工事が必要とされたのです。

当然ながら町は第1・第2保育園を耐震補強し使用を続けること、また統合保育園の新設を検討

■問題点 第1 保育園の場合

- ・ 1階に耐力壁が少なく柱だけの園庭になっている構造は、早急な大規模の補強工事が必要

■問題点 第2 保育園の場合

- ・ 児童福祉法に基づく耐用年数を既に超えた木造建築物であり、補強で耐用年数が延びるものではない
- ・ 今年3月に草津保育園と合流したことにより、今現在で手狭の状態。補強工事を施した場合、壁が増え保育園の機能を満たせなくなり、狭くなることで感染症が発生しやすい環境になる
- ・ フェンスで囲まれているが防犯性は低く、人目が少ないため簡単に侵入ができてしまう

■問題点 統合保育園新設の場合

- ・ 元道路公団宿舍跡地へ新設することを提案。しかし道路公団宿舍跡地は傾斜地であること、また国道292号沿いのため頻繁な横断を必要とし、送迎時に危険をともなうことから保育園としては不適切
- ・ 第2保育園を建て替えて、園児を移動することも提案。この場合、工事中に一時的な仮設保育園を数千万円も費やして建てなければならず、規定の手続きに時間を要し完成は来年12月に延びる

●現場の皆様から望まれて、ベルツ温泉センターを保育園に

新たな保育園を建てた場合、工事費だけで3億5千万円以上かかります。以前は補助金及び交付税算入の制度があったのですが現在はほとんどなく、受理されても1事業につき200万円程度です。しかしその対象は保育業務そのものへの補助なのです。保育園の建設にさえ補助金が交付されないところへ、宛てのない利益を求める施設の建設や事業に、補助金等の交付を得るなど論外であると思えます。「あれも建てよう！これも作ろう！」などの行政は当時の日本だからできたことであり、このために全国の自治体が多くの負の遺産を抱え（大阪市はその代表例）、悩まされている現状を皆さんもご存じだと思います。それら残された施設を「最小限の予算で、効率よく、健全経営をする」ことをこれからの時代は求めており、私が町長として皆様のために働く理由であると感じております。

私は保育園長並びに関係者と話し合いを重ね、両保育園を耐震補強して使ってもらうことも提案しましたが、**保育園側の回答は現在の施設の改装ではなく、ベルツ温泉センターの統合保育園化を望むものでした。**また、お子様を抱える保護者の皆様を対象にしたアンケート調査による結果も同じでした。私の独断ではなく、対話の中から導き出した策なのです。

●町民の皆様にとって、どの選択が一番正しいのか？



ベルツ温泉センターの1階と2階を改装する場合は、新築の30%前後の予算で済みます。財政面を最優先させて保育園にしようとするものではありませんが、財政を全く考えないで行政を行うわけにはいきません。しかし私が急いでベルツ温泉センターを保育園化する一番の理由は、園児の安全を守ることと、大切な子供たちが伸び伸びと過ごせる環境を整える人道上の問題からです。判断を遅らせることは園児たちを一層危険にさらすことになり、また保育場所を何度も変えることによるストレスも考えられ、ベルツ温泉センターを保育園化することを決定しました。当然ですが当初から議会に提案し、審議をいただき理解を得られております。また**保育園を統合する一番のメリットは、**

分散していた保育士さんが一ヶ所に集中することにより、今まで以上に園児たちに対し、きめ細かな気配りができることです。

私は自身のマニフェストで皆様にお約束をしました。「町民の皆様にとって、どの選択が一番正しいのかを、的確に早急に判断をし、答えをだす」と。そして「草津町にとって宝となる子供たちへの教育環境整備が私の使命である」と。いま、まさにその判断と使命を試されている時と肝に銘じ、全力でこの問題に取り組んでいる次第であります。

●ベルツ温泉センターは福祉と観光の複合施設になります

■ 1階は保育園に

- ・園児の頻繁な出入りと緊急時に備え、1階を保育園施設に考えております
- ・保護者の皆様から募集したところ圧倒的多数であった『草津あおぞら保育園』を園名とします
- ・同様に保護者アンケートで一番多かった「送迎時の駐車場があれば場所はこだわらない」という意見を尊重し、送迎用駐車場をしっかりと確保します。もちろん送迎バスの運行も行います
- ・屋外には人工芝を敷き詰め、遊具を配置し、運動会ができる園庭を設けます
- ・園庭をフェンスと植栽で囲い、防犯カメラを設置し、警備会社とのセキュリティー契約を結びます。これにより既存の保育園に比べ、防犯性は遥かに向上します。不特定の者が周囲に多くなると心配されるかも知れませんが、逆に人目が多いほど不審者は行動を制限されるものです
- ・少子化を考慮しての第1、第2、草津保育園の統合です。1階の広さは丁度よいスペースです

■ 2階は観光用フリースペースに

- ・2階は観光用の多目的施設として「くつろぎ」「学び」「楽しみ」をコンセプトにした空間にします
- ・専用の入口を設け、1階の保育園とは完全に分離します
- ・スキーシーズンは開放感のある託児所及び、そのご家族の休憩場所として利用できます
- ・もちろん託児所には有資格者である保育士を配置し、施設に劣らない安心感を提供します
- ・ファミリー用グレンデとしての意味を再認識し、託児所とセットにしたリフト券など新たなサービスを模索します。日本一のファミリーグレンデ施設を視野に入れたグレードを目指します
- ・他のシーズンには様々な催し物ができる施設として利用します。例えば夏季国際音楽アカデミーのレッスンや、ミニコンサート、奏者の憩談場所としての利用、また国立公園内にある施設としての特性を活かし自然をテーマにした学びの場の拠点として、お客様や子供たちに利用していただきます



●町民の皆様を知っていただきたい草津町の台所事情

草津町には「埋蔵金」や「打ち出の小槌」があるわけではありません。驚かれるかも知れませんが現在の草津町の借金、その中の一般会計の借金、それに対しての町の預金は下図のようになっています。「経常収支比率」という言葉を聞いたことがあるで



いま、北海道夕張市の破綻から制定された「財政健全化法」が施行され、市町村は右図の五つの指標で厳しく管理されています。草津町では全会計と、さらにそこへ西吾妻福祉病院、吾妻広域(消防署・火葬場)、草津観光公社も含まれています。つまり、安易な考えで投資ができない状況なのです。

ベルツ温泉センターとスキー場の経営は困難を極めています。累積赤字は21億円にのぼり、黒字の温泉会計から赤字補填のため14億円を借入れて、しのいでおります。ベルツ温泉センターの売上はピーク時の53%まで落ち込んでおり(平成15年の1億700万円を最高に、平成21年では5700万円)、町事業部・観光公社の赤字合計は毎年3300~4200万円になります。浴場のメンテナンスを含めこのまま放置しますと、10年間で5億円ほどの赤字をさらに積み重ねていくことになるのです。民間会社であれば既に倒産しています。

でしょうか。経常収支比率とは、過去に投資などで使われた借金の元利金、人件費、物件費、扶助費などの経費が予算に対してどれだけあるのかを表したものです。草津町の場合、一般会計の経常収支比率が98%と異常に高いのです。つまり政策的に自由に使えるお金が予算のたった2%しかないということなのです。市町村の適正指標が75%以下とされていることから見ても、草津町の台所事情が非常に厳しいことが分かります。

1・実質赤字比率

・市町村の行政事務本体における赤字の指標

2・連結赤字比率

・全会計の黒字と赤字を合算し赤字額が黒字額を上回る場合の指標

3・実質公債費比率

・市町村の一般会計が負担する公債費等、経費の大きさを示す指標

4・将来負担比率

・市町村が翌年度以降負担が確定している債務等の大きさを示す指標

5・資金不足比率

・公営企業ごとの資金不足額の大きさを示す指標

さらに問題があります。それはスキー場の Gondola やリフトの老朽化です。毎年メンテナンス費用だけで7000万円以上も出費していますが、これには限界があり、近い将来には新設しなければならない問題が出てくることは目に見えております。しかし現在の経営状況で新たな設備投資ができるでしょうか。当然、不可能です。そうなれば Gondola とリフトの運行停止、スキー場エリアの縮小をしなければならない時が来ます。同時にそれは民間経済と観光公社職員皆様の雇用に計り知れない影響を与えることを意味します。いま町政はこの最悪の状態を避けるためにも、困難をともなう財政運営を行っていかねばならない岐路に立たされているのです。



●住みやすい、お客様に愛される草津町の実現に向けて

私は財政健全化法をにらみつつ、財布はひとつの考えを持っています。全ての会計で経費の縮減を図り、効率化を求めるのは当然ですが、会計間の融通をもって対処する方法も考えています。ベルツ温泉センターの保育園化も予算の組換えをしなければならず、温泉会計より相当額を借入れて実行するものです。一般会計だけでは対処できないと、ご理解できると思います。

行政として何もしなければ、これほど楽なことはありません。しかしこれでは草津町の町長を名乗る意味がありません。厳しい財政状況ですが町民の皆様が期待する福祉、観光の政策に取り組んでいかなければなりません。これには「**今までは、こうだった**」との保守的な考えは改め、**見直すべきものは勇気を持って改革していく**所存であります。町長の仕事とは、決められた財政の枠組みの中での「やり繰り」です。大型滞納の問題、観光客激減の問題もあり、その中で改革を同時進行していかなければ草津町の財政を破綻させてしまうことになります。今は財政健全化法の五つの指標をクリアしていますが、予断を許す状況ではありません。私は草津町を決して第二の夕張市にはしないとの思いとともに、今まで以上に観光と福祉政策をどのようにしたら実現できるかを常に思索しています。行政として限界はあるかも知れませんが「住みやすい草津町」と「お客様に愛される草津町」の実現に向けて、最大限の努力をしたいと思います。どうか皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

その他のご報告

●児童室の取組み変更について

お子様をお預かりしている総合体育館の児童室ですが、終了時間が早いことと、夏休み期間にお預かりできないことが利用されている保護者の皆様にとって不便なルールでした。このたび強い要望にお応えしまして、終了時間の17:15を18:00まで延長いたしました。また夏休み期間は9:30~16:30までの間を実施することになりました。少しでも働くママさんの応援になればと思います。小さなことかも知れませんが、福祉と観光の両立する町づくりの一步になれば幸いに思います。

今回の時間変更と追加は、一人のお母さんからの私への切実な訴えから始まりました。このように、まだまだ私も目の行き届かないことが多々あると思います。どうぞ、ご遠慮なさらずに私に皆様の思いを投げかけてください。できる限り皆様の生活の一助になるよう一生懸命に働きます。よろしくお願いいたします。

●バスターミナル前の足湯建設と中央通り商店街の活性化

議会へ陳情のあったバスターミナル駐車場前の足湯建設ですが、議会の指示通り着工することに決定しました。現在10月中の完成を目指し、手続きを進めております。バスターミナルを利用するお客様の待ち時間や、「最後に草津温泉をもう一度！」と願うお客様の利用が多いに見込めるとしております。またバスで草津に到着したお客様の視界にまず足湯が飛び込んでくることは、町に対する好印象を与える効果も期待できます。新たな憩いのスポットになることを願っております。

同じく議会へ陳情のあった「パーク&ライド」のルート追加については、駐車場を元道路公団宿舍跡地への要望でしたが、距離が遠すぎるとの判断から、岸川アパート跡地をお客様専用の駐車場にして「パーク&ウォーク」の基点にすることを、議会と行政の合議で決定し進めております。両事業にともない、中央通り商店街の皆様とともに活性化運動を促進できればと思います。



●町民参加型誘客事業 『草津温泉・熱湯マラソン』

商工会青年部と旅館組合青年部の有志の皆様から、誘客事業としてのマラソン大会の企画書をいただいております。近郊では嬭恋村の「キャベツ・マラソン(第3回)」で3000人を超える選手とその家族、長野原町では歴史のある「北軽井沢マラソン(第25回)」で3700人を超える選手とその家族の誘客に成功を収めております。競技人口も最多といわれるマラソンブームの中「東京マラソン」においては2010年大会の申し込みが31万人を超え、その倍率は8.9倍という驚異的状况であること、草津町では「ツール・ド・草津」で2000人規模のロードレースを成功させていることを踏まえ、町としても青年部の皆様の意気込に協力をしたい考えを持っております。青年部の皆様いわく「選手としての参加は勿論のこと、町民ボランティアスタッフがとにかく必要です」とのことです。この企画は来春、閑散期の穴埋めに立案されております。交通規制などの難題も多いと思いますが、実現の際には町民皆様のご協力を、私からもお願いしたいと思います。

※写真はキャベツ・マラソンの様子



～ あとがきにかえて ～

町長就任からの目まぐるしい毎日の中、町民の皆様からは様々な場所で叱咤激励をいただきました。その都度対処いたしましても非常に伝わりづらいことが、私の中でひとつの課題となっております。ソクラテスの言葉に『**損害も利益も返報しえないことは不真面目なり**』とあります。内容に関わらず、「きちんと皆様に情報を伝えなければ町長失格だなぁ」と反省し、思い切って町の負債の公開にも踏み切りました。皆様と問題や情報を共有することで、私の目指す“全町民参加型の町づくり”の一步になればと思います。どうぞこれからも、町でお会いしましたら気軽に声をお掛けください。

草津町長 黒岩信忠